

# 講演「これからの高校教育のあり方」について（要旨）

大正大学地域創生学部 教授 浦崎 太郎氏

## 【 共学共創 “掛け算による価値創造” 】

立場の違う人達がお互いの立場を越え、越境して一緒に学び、社会や未来を創造していく

### 【昭和～平成の教育】

- 言われたことを早く正確にこなすことが求められる（工業化社会への対応）。
- 人との関係を見下し、各自が足し算による点数アップを目指す（嫌な事でも我慢して学力向上を目指す）。
- 学校内で完結している学び。



### 【これからの教育】

- 新しい価値を常に生み出し続けることが求められる（情報化社会への対応）。
- 内側から沸き起こる「知りたい・学びたい・実現したい」思いで自ら学ぶ（自走性）。
- 学校の外にも学びの場を拡大。



今求められている転換“掛け算による価値創造”

### 《新学習指導要領 「総探編」 頻出表現》

- ①自分軸と社会軸の統合（自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し解決していく）
- ②協働性・社会参画性・創造性（個人ではつくりだすことができない価値を生み出す）
- ③その先で価値ある学習を実現する（諸科目との有機性）

### 【今「高校生に必要な学び」と「学校の存在価値」】

「マイプロジェクトアワード（高校生が身近な話題に対してプロジェクトを組んでアクションを起こす）」

- ①マイ・テーマで探究（自分軸と社会軸の統合）＋ ②協働性・社会参画性・創造性（価値を生み出す）  
＜ここままであれば、学校でなくても地域でできる＞

学校の存在価値（関わるべき領域）＝③教科・学問・広い世界との有機化（価値ある学習の実現）

※ 地域の魅力発信＝個人で出来る事は限られるが、普通の人達が出会い良いところを持ち寄り、不得手をカバーし合うと、新しいものが生まれる。（島根県益田市、益田高校、大正大学のコラボレーションによる実践例）

### 【「総学的（総合的な学習の時間＝旧課程）な高校」と「総探的（総合的な探究の時間＝新課程）な高校」】

#### 《総学的な学校》

- 出発点は外(大人)から与えられる
- 十把一絡げ、他人事、低い自走性
- 授業時間内に学校で「やらせる」
- 探究をやればやるほど受験科目を圧迫
- 「やらせる」先生と「やらされる」生徒（学習指導と探究の二重負担、先生辛そう）
- 部活動は生徒を学校に引き付けるために必須

#### 《総探的な学校》

- 出発点は自分の中から出てくる
- マイプロジェクト、自分事、高い自走性
- 学校内外に関わらず「自分からやる」
- 学習意欲、受験意欲、進路実現性が向上
- マイプロジェクトの延長線上、生徒は活躍（活躍する生徒を見ている先生は幸せそう）
- 部活動への依存性が低下

### 【高校改革とこれからの地域づくり】

《高校改革》～20年後・30年後の社会像・地域像を見据えて～

- 各学校の存在意義や、各学校に期待される社会的役割、目指すべき学校像を明確化することで再定義・・・
- 普通教育を主とする学科を置く高校がそれぞれの特色化・魅力化に取り組むことを推進する・・・

《これからの地域づくり》

- “都市と地域の掛け算” 地域を出る人も来る人も、マイプロジェクトで自分らしく社会参加する
- 必要なのは対話力・共感力、各自にあった学びを提供できるマッチング組織（コンソーシアム）が大事

### 【小諸新校・小諸コンソーシアムへの提言】※“普通科再編”プロセス実践例（島根県立吉賀高校）

- 何をするか、対話して、アクションし、1年サイクルで確認して次の一年へそんな仕組の構築を期待
- 成功体験をした高校生をたくさん育てるため、幼小中学生から喜びを積み重ねられる街づくりに期待